

教育に関する事務の管理及び執行の状況
の点検及び評価の結果報告書
(平成24年度実績)

平成25年11月

平生町教育委員会

<目 次>

はじめに	P 1
学校教育		
学校支援員	3
学習支援員	4
標準学力調査	5
少人数学級講師	6
英語指導助手	7
中学校普通教室棟耐震補強設計業務	8
平生小学校外構整備	9
学齢簿システム	10
遊具点検	11
「学習のススメ」パンフレットの作成配布	12
生活習慣パンフレットの作成配布	13
コミュニティ・スクール推進事業	14
就学援助費	15
遠距離通学費	16
キャリア教育推進事業	17
社会教育		
学校支援地域本部事業	18
放課後子ども教室事業	19
未来を担う平生っ子の育成促進事業	20
子ども会育成連絡協議会 設立50周年記念事業	21
公民館講座の開催	22
人権コラム掲載事業	23
文化行事支援事業	24
一般向け移動図書館	25
子ども読書活動推進計画策定	26
親子で楽しむ絵本講座	27
ファミリースポーツレクリエーション大会	28
駅伝競走大会	29
スポーツ推進計画策定	30
我がまちスポーツ推進事業	31
曽根公民館整備事業	32

【はじめに】

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）の一部改正により、全ての教育委員会は、効果的な教育行政を推進するために毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、住民への説明責任を果たすことが求められており、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなっています。

2 点検・評価の対象・期間

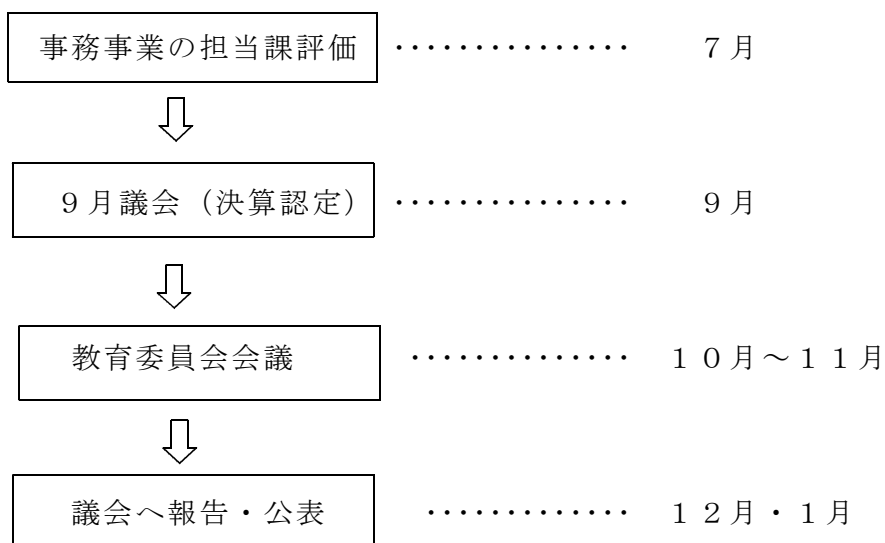
点検評価の対象は、「平成24年度平生町の教育」基本方針の努力点及び「平成24年度各課の基本的な考え方」の重点事項、その他の主要な事業を対象としました。

点検評価の対象期間は平成24年4月から平成25年3月までの事業です。

3 点検・評価の方法

今年度は、初年度ということもあり、自己評価のみとします。外部評価につきましては、来年度以降から実施することとしています。

4 実施フロー



5 まとめ

教育委員会の点検・評価については、平成25年度から教育委員会独自により開始することとしました。法では平成20年度からの実施が求められていますが、これまでは町長部局の事業評価制度を代替措置として、実施していました。

当面、本格実施とはいきませんが、外部評価の手法等、今後、改善を図りながらより実効性のある的確な評価としていきたいと考えています。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

学 校 教 育

平成24年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	輝く未来を拓く学校の創造		
努力点	安全・安心な教育環境を保障し、学校・地域を愛する心を育てます		
事業名	学校支援員		
区分	単年度	継続	実施根拠
			法令等
			単独
事業の目的	子どもたちの個の特性に応じたきめ細かな対応		
事業の内容	平生小の主として1年生への授業の補助 3名配置(1日4時間、週3~4日、時給810円) 落ち着いて授業を受けることのできない、また、理解の困難な児童の個別指導 特別支援対応(佐賀小1名、平生小3名、平生中2名配置)(1日5時間、週5日、時給810円) 特別な配慮を必要とする児童生徒への個別指導 学校図書担当(平生小・平生中兼務)1名配置 (1日4時間、週5日、時給810円) 図書室管理ソフトへの入力作業、廃棄手続き、本の紹介、本の企画展示など		
事業の対象	児童生徒		
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	2,405 千円	3,696 千円	5,636 千円
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	増加	横ばい	減少
			かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない
			できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
十分できている	できている	あまりできていない	
		できていない	
目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
十分できている	できている	あまりできていない	
		できていない	
内部評価	A	S 目標を上回る	A 目標どおり
		C 目標をやや下回る	D 目標を大幅に下まわる
判定説明考察	「授業中にノートチェックもできる。きちんとノートをとらせることができた。学習習慣の定着に繋がった、児童も落ち着き個々への対応もできやすくなり、児童たちとの信頼関係も増してきた」などの声が学校からあがっている。保護者からも喜ばれており、学校からの要望も強い事業である。 司書教諭は配置されているが、あくまでも教諭との兼務であり、授業との関係で図書室に係わる時間が限られているため、図書担当としての支援員の配置は重要な役割を担っている。学校全般にわたり校務が多様化、複雑化している中で教員が児童・生徒と向き合う時間の一層の確保のためにも重要な事業である。 平成25年度からは、佐賀小学校も兼務となり、十分な支援をすることが困難になってきており、拡充の必要がある。		
事業の方向性	さらに重点化する	現状のまま継続する	見直しのうえ、継続する
	事業の縮小を検討する	休止、廃止を検討する	単年度で終了
外部評価		評価委員意見	

平生町教育委員会

平成24年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	輝く未来を拓く学校の創造		
努力点	幼・小・中の連携を重視し、確かな「生きる力」を育成します		
事業名	学習支援員		
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独
事業の目的	小中学生の不登校児童生徒支援の一環として、学習支援員を不登校児童生徒の家庭等に派遣し、児童生徒が登校できるようにしたり、学校での支援をしたりする。		
事業の内容	平成21年度までは県の補助事業であったが、以降は町の単独事業としている。 保護者からの申請により、教員免許を持つ人材を教育委員会から、家庭に派遣したり、学校での支援をしている。		
事業の対象	不登校の児童生徒		
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	0 千円	0 千円	0 千円
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	増加	横ばい	減少 かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	十分できている	できている	あまりできていない できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	十分できている	できている	あまりできていない できていない
判定説明考察	D	S 目標を上回る	A 目標どおり B ほぼ目標どおり
		C 目標をやや下回る	D 目標を大幅に下回る
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了
外部評価		評価委員意見	

平生町教育委員会

平成24年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	輝く未来を拓く学校の創造		
努力点	幼・小・中の連携を重視し、確かな「生きる力」を育成します		
事業名	標準学力調査		
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独
事業の目的	児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、児童生徒への指導や学習状況の改善等に役立てる。 学校と家庭が課題を共有し、その課題解決に向けて連携して家庭学習の充実を図ることにより、児童生徒の学力向上に資する。		
事業の内容	22年度から実施。児童生徒の学習到達度を評価する。個人成績、学校用の資料提供を受ける。 22・23年度 小学5年生 国語、社会、算数、理科の4教科 中学2年生 国語、社会、数学、理科、英語の5教科 24年度 小学4年生 国語、算数の2教科 小学5年生 国語、算数、理科の3教科 中学1年生 国語、数学の2教科 中学2年生 国語、数学、理科の3教科		
事業の対象	同上		
事業費 (決算額)	平成22年度 270 千円	平成23年度 286 千円	平成24年度 335 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	増加	横ばい	減少 かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	十分できている	できている	あまりできていない できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	十分できている	できている	あまりできていない できていない
判定説明考察	平成24年度から実施の対象学年を拡大したことにより、小学校6年生と中学校3年生を対象に実施される全国学力・学習状況調査と併せて児童生徒一人ひとりの学力の定着状況を継続的に把握することができる。また、児童生徒の学力定着状況をもとに、教員の授業改善や家庭と連携した学力向上に活かすことができた。		
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了
外部評価		評価委員意見	

平生町教育委員会

平成24年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	輝く未来を拓く学校の創造		
努力点	安全・安心な教育環境を保障し、学校・地域を愛する心を育てます		
事業名	少人数学級講師		
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独
事業の目的	中学校2年、3年の35人学級化により、生徒一人ひとりに応じたきめ細かい指導体制を充実することで、高校につながる学力の向上を図るとともに、生徒指導上の諸課題に対応し、生徒一人ひとりの夢や希望を育み、その実現に資する。		
事業の内容	中学校2、3年の両学年とも106人以上となる場合は、本務教員1名と非常勤講師3名を配置されるので、この事業の対象となる(県補助事業)。非常勤講師は、1日5時間、週4日勤務、時間単価2,620円、中学校教員免状を有する者となっている。教科担任として、専門の教科を教える。 1学年のみ106人以上となった場合は加配教員1名の配置であり、非常勤講師はつかないので、この事業の対象とはならない。		
事業の対象	中学校2年生、3年生		
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	0 千円	0 千円	0 千円
事業 の 評 価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	増加	横ばい	減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	十分できている	できている	あまりできていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
十分できている	できている	あまりできていない	
内部評価	A	S 目標を上回る	A 目標どおり
		C 目標をやや下回る	D 目標を大幅に下回る
判定説明考察	授業を意欲的に取り組んでいる生徒が増え、クラスが落ち着いて学習できる雰囲気があると感じる生徒も増え、関心や意欲が高められるとともに理解力の向上につながる授業改善ができる、などの成果があった。また、少人数化により、学級担任が一人ひとりの生徒としっかり関わることができ、生徒の悩みや学級内のトラブルに早く対応することができるなど、保護者の満足度も向上した。 平成24年度は中学校2、3学年が106人以上でこの事業の対象であったが、非常勤講師を県が直接配置してくれたため、町予算は不要となった。		
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了
外部評価		評価委員意見	

平生町教育委員会

平成24年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	輝く未来を拓く学校の創造				
努力点	安全・安心な教育環境を保障し、学校・地域を愛する心を育てます				
事業名	英語指導助手				
区分	単年度	継続	実施根拠	法令等	単独
事業の目的	英語教育の充実と国際理解教育の推進				
事業の内容	中学校における外国語授業の担任の補助、小学校における国際交流事業の援助(英語でのゲーム、簡単な英会話)。時間単価3,000円。 1日4時間～5時間、週5日勤務、金曜日は1月4回のうち、平生小、佐賀小各2回。				
事業の対象	生徒、児童				
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度		
	2,266 千円	2,463 千円	2,268 千円		
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)				
	増加	横ばい	減少	かなり減少	
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)				
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない	
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)				
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない	
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)				
十分できている	できている	あまりできていない	できていない		
内部評価	A	S 目標を上回る	A 目標どおり	B ほぼ目標どおり	
		C 目標をやや下回る	D 目標を大幅に下まわる		
判定説明考察	小学校では学習指導要領により、平成23年度から外国語活動が必修化になった。週1時間、年間35時間。これは技術を習得するものではなく、コミュニケーション能力の育成を目的としている。また、県では教育活動を展開するに当たっての基軸の一つとして「コミュニケーション能力を育む教育」を挙げており、小学校における外国語活動や中学校における外国語授業での英語指導助手の果たす役割は大きい。				
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了		
外部評価	評価委員意見				

平生町教育委員会

平成24年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	輝く未来を拓く学校の創造		
努力点	安全・安心な教育環境を保障し、学校・地域を愛する心を育てます		
事業名	中学校普通教室棟耐震補強設計業務		
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独
事業の目的	学校の耐震化を促進し、生徒の安全を確保する		
事業の内容	中学校においては、普通教室棟及び特別教室棟の2棟が耐震化の必要な校舎である。その内、普通教室棟の耐震化を補強により実施するための実施設計である。		
事業の対象	平生中学校		
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	0 千円	0 千円	3,036 千円
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	増加	横ばい	減少 かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	十分できている	できている	あまりできていない できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
内部評価	A	S 目標を上回る	A 目標どおり B ほぼ目標どおり
		C 目標をやや下回る	D 目標を大幅に下まわる
判定説明考察	現在、本町の学校耐震化率は平成24年度末で64.3パーセントであり、耐震化率においては、県下でも下位にある。本町3校全体の校舎数は14棟であり、耐震性有りの校舎が9棟で耐震化の必要な棟数が5棟となっている。このうち、中学校普通教室棟については、24年度にこの設計を実施したため、24年度に前倒しが可能となり、繰越事業として25年度の早期に工事に着手することができ、夏休み中の完成が可能となった。25年度末の耐震化率は71.4パーセントとなる見込みである。		
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了
外部評価		評価委員意見	

平生町教育委員会

平成24年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	輝く未来を拓く学校の創造		
努力点	安全・安心な教育環境を保障し、学校・地域を愛する心を育てます		
事業名	平生小学校外構整備		
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独
事業の目的	歩車道を分離することで、児童の安全を図る		
事業の内容	平生小プール隣接の民有地を確保し(H23年度購入)、正門付近の教職員等の車両と児童の登下校時の通行を分離するものである。児童の安全を確保し、駐車場として整備するとともに、フェンス、水路の新設・改良を実施する。		
事業の対象	平生小児童、教職員等		
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	千円	千円	15,699 千円
事業 の 評 価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	増加	横ばい	減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	十分できている	できている	あまりできていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
十分できている	できている	あまりできていない	
内部評価	A	S 目標を上回る	A 目標どおり
		C 目標をやや下回る	D 目標を大幅に下回る
判定説明考察	正門付近で児童と教職員の車両が、交錯していたため、危険防止のために車両の通行のための進入路を別途設ける工事を実施した。これにより、正門は車両の進入禁止にしたため、児童の安全が一層確保されることになった。また、駐車場も広くなったため、教職員や行事等での利便性も増した。		
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了
外部評価		評価委員意見	

平生町教育委員会

平成24年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	輝く未来を拓く学校の創造		
努力点	安全・安心な教育環境を保障し、学校・地域を愛する心を育てます		
事業名	学齢簿システム		
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独
事業の目的	住民基本台帳システムとLANで接続し、学齢簿を管理する		
事業の内容	学齢簿は学校教育法により、住民基本台帳に基づいて、編製しなければならないこととなっている。また、学齢簿の記載事項に変更等が生じたときは、速やかに必要な加除訂正を行わなければならない。これまでは、手書きにより、修正していたが、修正漏れや文字の間違いなどが発生していた。そのため、平成24年度にリース(60カ月)によりシステムを導入した。これにより、転入、転出等についてリアルタイムでの情報共有が可能となることや、担当者の事務の軽減、ミスの軽減などのメリットがでてきている。		
事業の対象	小中学児童生徒		
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	千円	千円	283 千円
事業 の 評 価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	増加	横ばい	減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	十分できている	できている	あまりできていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
十分できている	できている	あまりできていない	
内部評価	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下回る B ほぼ目標どおり
判定説明考察	学齢簿システムはほとんどの市町で導入しており、本町では導入が遅れていた。導入により、確実な学齢簿の管理が可能となった。また、翌年度に小中学校に入学予定の児童生徒を把握し、異動処理などに対応でき、児童生徒情報の照会が素早くできるため、業務の効率化にも貢献している。		
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了
外部評価		評価委員意見	

平生町教育委員会

平成24年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	輝く未来を拓く学校の創造			
努力点	安全・安心な教育環境を保障し、学校・地域を愛する心を育てます			
事業名	遊具点検			
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独	
事業の目的	専門業者による遊具点検を実施し、園児や児童の安全に資する			
事業の内容	平成21年度から実施。多くの園児や児童が毎日使用する遊具であるので、専門業者による点検を実施するものである。都市公園における遊具の安全確保に関する指針においても、専門的知識をもった人材(公園施設製品整備技師、公園施設安全管理士)による点検が望ましいとされている。			
事業の対象	幼稚園 小学校			
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	75 千円	102 千円	111 千円	
事業 の 評 価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下回る	B ほぼ目標どおり
判定説明考察	点検手法は、目視、触診、打診等により劣化状況を確認する。木部については、腐食状況を確認する。軽微な補修は、受託者が行い、受託者は、遊具点検表、配置図を作成し、結果報告書を提出する。判定は、AからDの4段階で判定しており、修繕の必要な箇所については、翌年度予算で改修を実施する。この点検により、改修した箇所も多く、園児や児童の安全確保に資することができる。			
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了	
外部評価		評価委員意見		

平生町教育委員会

平成24年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	輝く未来を拓く学校の創造		
努力点	家庭・地域とつながり、信頼される学校を創ります		
事業名	「家庭学習のススメ」パンフレットの作成配布		
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独
事業の目的	確かな学力の向上のために家庭と学校が連携して取り組んでいくための指針となるもの		
事業の内容	平成23年度に幼稚園、小中学校の子どもを持つ全家庭に配布。以降、毎年度、新1年生分を作成・配布している。家庭学習のポイントを学年別に分かりやすく記載し、確かな学力育成のために、学校と家庭が連携し取り組んでいくための指針とするもの。		
事業の対象	児童生徒		
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	千円	41 千円	29 千円
事業 の 評 価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	増加	横ばい	減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	十分できている	できている	あまりできていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
十分できている	できている	あまりできていない	
内部評価	A	S 目標を上回る	A 目標どおり
		C 目標をやや下回る	D 目標を大幅に下回る
判定説明考察	120部を作成。小学校新1年生に4月に配布した。家庭学習を進める上でのエッセンスが詰まっている。各学校ではこれを基に、より具体的に家庭学習の進め方について指導し、学力の向上に努めた。教育委員会事務局としては、このパンフレットに書かれていることを各家庭で是非とも実践され、学力の向上につなげてもらいたいと願っている。		
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了
外部評価		評価委員意見	

平生町教育委員会

平成24年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	輝く未来を拓く学校の創造		
努力点	家庭・地域とつながり、信頼される学校を創ります		
事業名	生活習慣パンフレットの作成配布		
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独
事業の目的	生活習慣の確立のために家庭と学校が連携して取り組んでいくための指針となるもの		
事業の内容	A3判で紙厚用紙を使い、家庭の中の見えやすい所に掲示することで、家族で取り組んでもらうことを趣旨に作成するもの。家庭教育5つのポイントとして、「基本的な生活習慣を身につけましょう」「ルールを守りマナーを身につけましょう」「家族でのふれあいを大切にしましょう」「家庭での学習習慣を身につけましょう」「地域でいろいろな体験活動を楽しみましょう」などの具体的な取り組みの投げかけを行い、実践してもらうものである。毎年度、小学校新1年生分を増刷する予定である。		
事業の対象	児童生徒及びその保護者		
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	千円	千円	39千円
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	増加	横ばい	減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	十分できている	できている	あまりできていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
十分できている	できている	あまりできていない	
内部評価	C	S 目標を上回る	A 目標どおり
		C 目標をやや下回る	D 目標を大幅に下回る
判定説明考察	カラー印刷で1,200部作成した。24年度の早い時期に作成する予定であったが、内容の検討に時間を要し、完成が年度末になってしまったのが反省点である。家族みんなで共通認識の上で立って実践に繋がることを期待したい。		
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了
外部評価		評価委員意見	

平生町教育委員会

平成24年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	輝く未来を拓く学校の創造		
努力点	家庭・地域とつながり、信頼される学校を創ります		
事業名	コミュニティ・スクール推進事業		
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独
事業の目的	コミュニティ・スクールに指定することで、特色のある開かれた学校づくりを推進する		
事業の内容	議決機関である学校運営協議会を設置。年度当初に校長の学校運営方針について、議決を得ながら、学校経営を進めていく。運営協議会委員は、有識者、地元代表、保護者代表、学校関係者の中から教育委員会が任命する。運営協議会委員は、運営方針の審議の際、学校に対して意見や要望を発言できることになっており、学校はその意見を尊重し、学校運営に生かしていくことで、地域と連携した特色のある学校づくりをすすめていくこととしている。平成20、21年度に平生小が文部科学省の研究指定、22年度から佐賀小、平生小を、24年度から平生中を町指定。コミュニティ・スクール推進事業交付金として上限額を20万円とし、学校の要望に応じ補助している。		
事業の対象	佐賀小学校、平生小学校、平生中学校		
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	350 千円	241 千円	272 千円
事業 の 評 価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	増加	横ばい	減少 かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	十分できている	できている	あまりできていない できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
十分できている	できている	あまりできていない できていない	
内部評価	B	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる B ほぼ目標どおり
判定説明考察	平生小、佐賀小では年間、概ね5回程度の学校運営協議会を開催し、学校、家庭、地域がそれぞれの立場で意見交換し、連携を深め、協力して地域の子どもを育てていこうとする体制が定着しつつある。また、本町では地域教育ネット(学校支援地域本部事業と放課後子ども教室)も実施しており、学校支援ボランティアと一体となった取組みとなっている。地域の講師、放課後の見守り、登下校時の見守り、学校環境整備など地域の活力を生かした取組みが増えている。また、地域や家庭、関係諸機関との連携がより深まってきた。 ただ、平生中学校が24年度の早い時期からの指定をすることとしていたが、立ち上げが3月下旬となったのが反省点である。新年度において、一層取組みを深めていく必要がある。		
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了
外部評価		評価委員意見	

平生町教育委員会

平成24年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	輝く未来を拓く学校の創造		
努力点	安全・安心な教育環境を保障し、学校・地域を愛する心を育てます		
事業名	就学援助費		
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独
事業の目的	保護者の経済的負担の軽減		
事業の内容	小中学生の児童生徒を持つ家庭で経済的に困難な家庭に対し、学用品費、給食費、修学旅行費用などの一部助成をする。 国庫補助は要保護世帯のみが対象。		
事業の対象	小中学校の児童生徒を持つ要保護世帯、準要保護世帯		
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	14,965 千円	13,599 千円	14,494 千円
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	増加	横ばい	減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	十分できている	できている	あまりできていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
十分できている	できている	あまりできていない	
内部評価	A	S 目標を上回る	A 目標どおり
		C 目標をやや下回る	D 目標を大幅に下まわる
判定説明考察	<p>学校教育法第25条において「経済的理由によって就学困難と認められる学齢児童生徒の保護者に対しては、市町は必要な援助を与えなければならない」とあり、教育の機会均等の精神に基づき、全ての児童生徒が義務教育を円滑に受けることができるように配慮し、実施しなければならない事業である。</p> <p>対象者、支給額も増えている傾向にあり、法律の趣旨からも継続していく必要がある。</p>		
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了
外部評価		評価委員意見	

平生町教育委員会

平成24年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	輝く未来を拓く学校の創造		
努力点	安全・安心な教育環境を保障し、学校・地域を愛する心を育てます		
事業名	遠距離通学費		
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独
事業の目的	保護者の経済的負担の軽減		
事業の内容	<p>児童は片道2キロ、生徒は片道6キロが対象。個人負担が1万円を超える金額を町が補助する。保護者からの申請により、学校がバス会社から定期券を購入し、保護者へ交付する。その際、保護者は上限1万円を学校に支払う。町教育委員会は学校へ補助金を交付し、学校は保護者からの負担金と補助金により、バス会社に定期券代を支払う。</p> <p>自転車通学については、6キロ～9キロ未満は39,000円、9キロ以上は43,000円を支給する。</p>		
事業の対象	バス通学、自転車通学の児童生徒		
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	3,265 千円	2,401 千円	2,262 千円
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	増加	横ばい	減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	十分できている	できている	あまりできていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
十分できている	できている	あまりできていない	
内部評価	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる
判定説明考察	<p>教育の機会均等の精神、義務教育の円滑な推進を図るために必要不可欠な事業である。平成23年度までは、一旦、保護者が定期券代を支払い、その後(2カ月後位)に補助率に応じた補助金を町から保護者に支払い、年度末に1万円を超える額を精算として保護者に支払っていた。このため、一時的に保護者は定期券代全額を支払わなければいけないこと、また、年度末にならないと1万円を超える額が精算返戻されないため、保護者の負担が大きかった。このため、平成24年度からは、3校とも学校がまとめて、バス会社から定期券を購入し、その定期券代は町から学校に支払い、その後、学校からバス会社に支払うシステムにした。これにより、保護者は1学期に上限1万円を負担するだけでよくなり、保護者の立て替払いの必要がなくなり、一層の負担軽減になっている。</p>		
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了
外部評価		評価委員意見	

平生町教育委員会

平成24年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	輝く未来を拓く学校の創造		
努力点	幼・小・中の連携を重視し、確かな「生きる力」を育成します		
事業名	キャリア教育推進事業(講演会)		
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独
事業の目的	生徒一人ひとりの自己にふさわしい生き方を実現しようとする意欲・態度や能力を育む		
事業の内容	中学校でのキャリア教育の取組は、「職場体験学習」、高齢者とのふれあいやボランティア活動をする「平生お助け隊」、「思春期体験学習」及び「ふるさとの先輩から学ぶ講演会」としてのキャリア教育講演会を実施している。夢や希望を持ち、一人の社会人として自立できるよう、自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度、能力を育成する事をねらいとしている。「人生の先輩から学ぼう」として平生町出身の著名な方で各界で活躍している方を講師として招聘している。費用は交通費、宿泊費である。		
事業の対象	平生中学生徒		
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	千円	46 千円	82 千円
事業 の 評 価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	増加	横ばい	減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	十分できている	できている	あまりできていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
十分できている	できている	あまりできていない	
内部評価	A	S 目標を上回る	A 目標どおり
		C 目標をやや下回る	D 目標を大幅に下まわる
判定説明考察	キャリア教育の必要性については、明確な目標や目的をもたないままの進学や就職、不登校や中途退学、ニートの増加や就職後の早期離職などがあげられる。これらの課題解決に向けて、豊かな人間性の育成、望ましい勤労観・職業観の育成、学習意欲と学力の向上、社会的自立の促進等が必要となっている。平成23年度から始め、これまで元プロ野球選手、元テレビプロデューサー、国家公務員の方々に講演いただいている。生徒にとって、今後の進路や生き方を考える上での指針を得る機会となっている。 中学校からは、「中学校時代の思い出や職業観、進路選択にかかわる話を聞き、生徒は自分自身の進路について真剣に考えることができた。未来へ向かって夢や希望を膨らませる時間であった。身近な方の実体験に基づくお話は、多くの生徒の心に響いたものと思われる」といった感想が寄せられている。		
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了
外部評価		評価委員意見	

平生町教育委員会

社 会 教 育

平成24年度事業評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進			
努力点	青少年健全育成活動を推進します			
事業名	学校支援地域本部事業			
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独	
事業の目的	学校のニーズに応じた地域住民による学校支援ボランティア活動により、地域全体で学校を支援する体制づくりを目指す。			
事業の内容	地域より学校支援ボランティアを募り、学校支援コーディネーターや直接学校からの依頼により、学習支援、環境整備、安全管理等のボランティア活動に取り組む。			
事業の対象	町内小中学校			
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	1,695 千円	1,032 千円	1,110 千円	
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
十分できている	できている	あまりできていない	できていない	
内部評価	B	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる	B ほぼ目標どおり
判定説明考察	<p>活動実績としては、学習補助 149回 452名、環境整備 83回 324名、安全見守り 407回 3,473名、学校行事 8回 44名、部活動 40回 75名 総計で687回 4,368名となっており、前年度より1割程度増加している。</p> <p>要望が増加し、支援ボランティアも増えてきている。今後も支援ボランティアを増やしていくが、連絡体制等の整備が課題である。</p> <p>地域と学校のつながりが強くなり、先生方や子どもたちと支援ボランティアとのコミュニケーションが取れたことで、学校以外においても、挨拶や声かけを積極的にするなど、ボランティアの方の意識の向上がみられる。</p> <p>ただ、要望に対応するために必要な資材(花の苗や肥料、園芸用品)の購入に多くの経費がかかっていることについても、今後どのようにするのがよいか検討する必要があると思われる。</p> <p>学校によって温度差があり、全ての学校で積極的にこの仕組みを活用してもらえよう、訴えていく必要がある。</p>			
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了する	
外部評価		評価委員意見		

平生町教育委員会

平成24年度事業評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進			
努力点	青少年健全育成活動を推進します			
事業名	放課後子ども教室事業			
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独	
事業の目的	学校の校庭や教室等を子どもたちの安全で安心な活動拠点として開放し、放課後や週末において子どもたちがスポーツや文化活動、学習等の様々な活動をするを推進する。			
事業の内容	各教室ごとにコーディネーターと安全管理員で活動内容を検討し、スポーツや文化活動、学習等を児童に指導する。 具体的には、「ふれあい工作活動」、「佐賀ふれあい教室」、「友遊スポーツ教室」、「中央児童館クラブ」を開設している。			
事業の対象	小学校児童			
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	212 千円	346 千円	298 千円	
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
十分できている	できている	あまりできていない	できていない	
内部評価	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる	B ほぼ目標どおり
判定説明考察	放課後子ども教室の活動実績は、ふれあい工作活動 15回 517名、佐賀ふれあい教室 14回 247名、友遊スポーツ教室 10回 121名、中央児童館クラブ 119回 1,407名で開催回数は前年度と同じで、対象児童数の変動で人数は若干減少しているが、相対的にみるとほぼ横ばいと考える。 個々のコーディネーターが嗜好を凝らして企画する内容で、子どもたちにとって学校とは違う体験をしながら有意義な時間を過ごしている。 また、コーディネーターや安全管理員とのふれあいで、子どもたちとの親近感が増し、学校以外の場所でもあいさつや声かけをできる関係ができています。			
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了する	
外部評価		評価委員意見		

平生町教育委員会

平成24年度事業評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進			
努力点	青少年健全育成活動を推進します			
事業名	未来を担う平生っ子の育成促進事業			
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独	
事業の目的	青少年健全育成活動を地域で展開する町民会議地区会議に対しての取り組みを支援することにより、真に心の豊かな平生っ子の育成を図る。			
事業の内容	平成24年度新規事業で、青少年育成町民会議地区会議が実施する活動(スポーツレクリエーション活動、文化・学習活動、その他コミュニティ活動)を活性化するために助成金を交付する。			
事業の対象	青少年育成町民活動地区会議			
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	千円	千円	69千円	
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
十分できている	できている	あまりできていない	できていない	
内部評価	B	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる	B ほぼ目標どおり
判定説明考察	平成24年度は7つの地区会議のうち、3地区(平生町、平生村、堅ヶ浜)については予定していた日に選挙が行われることになり、事業実施できなかったが、4地区(宇佐木、大野、曽根、佐賀)でそれぞれが嗜好を凝らした事業により三世代交流を図った。 宇佐木地区 凧つくりと凧揚げ 参加者50名、大野地区 万華鏡づくりとそうめん流し 参加者53名、曽根地区 親子ケーキづくり 参加者105名、佐賀地区 餅つき大会 参加者90名のもとで実施され、この事業の趣旨に沿った人材育成と三世代交流が十分行われたと思われる。			
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了する	
外部評価		評価委員意見		

平生町教育委員会

平成24年度事業評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進			
努力点	青少年健全育成活動を推進します			
事業名	子ども会育成連絡協議会 設立50周年記念事業			
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独	
事業の目的	少子化や子どもたちを取り巻く社会情勢の変化により、減少傾向にある子ども会員数に歯止めをかけ、子ども会活動を活性化すること。			
事業の内容	子ども会の活性化を図るために行われる町子ども会育成連絡協議会の創設50周年記念行事の支援をするための補助金を交付する。			
事業の対象	平生町子ども会育成連絡協議会			
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	千円	千円	500千円	
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
十分できている	できている	あまりできていない	できていない	
内部評価	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる	B ほぼ目標どおり
判定説明考察	<p>記念行事は子ども82名、育成会・保護者67名、ボランティア7名、指導者30名と多くの参加で盛大に実施された。</p> <p>当日は、開会行事後尾国海岸において、海上保安庁の放水展示、山口県漁協平生町支店の協力による地引網体験と、漁協女性部指導による魚料理の展示と海鮮バーベキューが行われた。</p> <p>この行事を行うことで、子ども会育成連絡協議会の活動が活性化したと思われる。</p> <p>なお、この事業の財源としては、山口県人づくり財団の「やまぐちしょういん学校助成金」を全額充当することができた。</p>			
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了する	
外部評価		評価委員意見		

平生町教育委員会

平成24年度事業評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進			
努力点	生涯学習を推進します			
事業名	公民館講座の開設			
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独	
事業の目的	地域住民の生涯学習を推進し、教養の向上、健康増進を図る。			
事業の内容	各公民館において、公民館利用者協議会と連携を持ちながら、児童対象講座、高齢者学習講座、三世代交流活動等の講座を開設する。			
事業の対象	地域住民			
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	231 千円	242 千円	228 千円	
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
十分できている	できている	あまりできていない	できていない	
内部評価	B	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる	B ほぼ目標どおり
判定説明考察	<p>中央公民館では、児童対象講座として、ふれあい夏の天体観測等3講座(延べ99名出席)を実施、高齢者学習講座として、平生生き生き大学 7回(延べ126名出席)を実施、三世代交流活動として、しめ縄づくり教室(33名出席)、大野公民館では、児童対象講座として、自然体験学習等6講座(延べ261名出席)、生涯学習講座として七草・薬膳料理教室(20名出席)、三世代交流活動として、もちつき大会等5活動(延べ274名出席)、曾根公民館では、児童対象講座として、サツマイモ植え等6講座(延べ191名出席)、三世代交流活動として、ラジオ体操会等 5活動(延べ486名出席)、佐賀公民館では、児童対象講座として、生花教室等5講座(延べ179名出席)、生涯学習講座として、きり絵教室等2講座(延べ20名出席)、高齢者学習講座として、明治青年大学 1講座(19名出席)、三世代交流活動として、どんど焼き等2活動(210名出席)を実施した。</p> <p>それぞれの公民館で、利用者協議会や指導される団体等と協議して、企画運営を行っており、実績をあげている。</p>			
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了する	
外部評価		評価委員意見		

平生町教育委員会

平成24年度事業評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進			
努力点	人権教育を推進します			
事業名	人権コラム掲載事業			
区分	単年度 継続	実施根拠	法令等 単独	
事業の目的	広報にコラムを掲載することで、町民に人権を身近に感じてもらい、人権意識の高揚を図る。			
事業の内容	平成23年1月から、人権教育推進協議会委員より編集委員を4名選出し、協議会委員自らが執筆した人権に関わる原稿を編集し、人権コラム「つながり めくもり」として広報へ毎月掲載する。			
事業の対象	町民			
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	千円	48 千円	48 千円	
事業 の 評 価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
十分できている	できている	あまりできていない	できていない	
内部評価	B	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる	B ほぼ目標どおり
判定説明考察	<p>人権教育において、地域社会における人権意識の高揚を目指す啓発活動を地道に続けていく必要がある。</p> <p>町の広報に毎月人権コラムを掲載することにより、多くの町民の目に触れることとなり、人権を身近なものに感じることでできる環境は提供していると思われる。</p>			
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了する	
外部評価		評価委員意見		

平生町教育委員会

平成24年度事業評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進			
努力点	文化活動を推進します			
事業名	文化行事支援事業			
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独	
事業の目的	音楽協会や文化協会などが行う行事への人的財政的支援を行い鑑賞機会の充実を図る。			
事業の内容	文化行事の企画、立案の支援や当日の運営補助、及び補助金の支出による財政的支援をする。文化行事としては、平生町文化協会主催の平生町総合文化展、平生町音楽協会主催の平生町音楽鑑賞会とふれあいコンサート、町民音楽祭について、事務局として人的支援と、それぞれの協会へ活動を活性化を図るために補助金の交付を行う。			
事業の対象	文化協会・音楽協会			
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	271 千円	271 千円	271 千円	
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
十分できている	できている	あまりできていない	できていない	
内部評価	B	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる	B ほぼ目標どおり
判定説明考察	文化協会においては、平成24年度には第45回の総合文化展を開催された。自分たちの生涯学習の発表の場となるこの文化展について、ボランティアでの運営をされる中で、社会教育課は事務局としては資材運搬や会場設営に係る人的支援と、補助金の支出による財政的支援を行った。ひらお産業まつりとの連携で、一部会場での混乱があったが、生涯学習の発表という目標は達成できている。 音楽協会においては、平成24年度 第47回音楽鑑賞会、第28回ふれあいコンサート、第26回町民音楽祭が開催された。音楽鑑賞会については、平生の子どもたちにすばらしい生の音楽に触れる機会をとの願いからはじまったもので、平成24年度はクロードチアリと趙 栄春を招き840名の来場で大盛況であった。ふれあいコンサートについては町内の小中高校が音楽によるふれあいをもつための行事で、平成24年度はゲストとして熊毛南高校音楽部のOB・OGなどギター愛好者で構成したサリティオを招き有意義な音楽による交流が行われた。町民音楽祭については、町内の公民館やコミュニティセンターで活動している音楽団体の発表の場として開催された。いずれの行事もボランティアでの運営を事務局として人的支援を行うとともに、活動資金となる補助金を交付したことで成果を上げている。			
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了する	
外部評価	評価委員意見			

平生町教育委員会

平成24年度事業評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進			
努力点	読書に親しむ環境を整備します			
事業名	一般向け移動図書館			
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独	
事業の目的	図書館に行く手段や時間がないなど、図書館の利用が難しい住民に、図書館のサービスを提供することを目的とする。			
事業の内容	図書館からの距離が離れており、交通手段に限られる佐賀地区の高齢者等を対象に、老人クラブなどの団体から図書の貸出要望を受け、希望される日時・場所に図書を持参し貸し出しを行う。			
事業の対象	町民			
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	千円	千円	千円	
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
十分できている	できている	あまりできていない	できていない	
内部評価	D	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる	B ほぼ目標どおり
判定説明考察	平成24年度は、佐賀地区老人クラブに移動図書館について説明をし、佐賀出張所に図書貸し出しの申込書を用意したが、申し込みはなく貸し出しの実績はなかった。 しかし、町内には移動図書館に対する潜在的な需要はあると思われるので、今後は、対象や方法を見直し移動図書館の実効ある取り組みを継続する。			
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了する	
外部評価		評価委員意見		

平生町教育委員会

平成24年度事業評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進			
努力点	読書に親しむ環境を整備します			
事業名	子ども読書活動推進計画策定			
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独	
事業の目的	「第二次子ども読書活動推進計画」を策定し、本町における子どもたちが、読書に親しむ環境を整えることを目的とする。			
事業の内容	第一次子ども読書活動推進計画の期間満了に伴う、第二次子ども読書活動推進計画を平成24・25年度で策定する。 平成24年度は、策定委員会を設置し、第一次計画の進捗状況、効果、課題を検討することと園児保護者・児童・生徒を対象にアンケート調査を行う。			
事業の対象	町民			
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	千円	千円	21千円	
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
十分できている	できている	あまりできていない	できていない	
内部評価	B	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる	B ほぼ目標どおり
判定説明考察	策定委員会を設置し、第一次計画の検証及び第二次計画策定に向けての協議、アンケート調査を実施した。 園児保護者及び児童生徒対象にアンケート調査 配布数/回答数 幼稚園・保育園保護者 56人/66人 小学校4～6年生児童 327人/335人 中学校2年生児童 118人/118人 熊毛南高校2年生 98人/100人 合計 599人/619人 回答率 96.8% アンケート結果については、集計と分析を行い、計画の策定に反映させる予定である。			
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了する	
外部評価	評価委員意見			

平生町教育委員会

平成24年度事業評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進			
努力点	読書に親しむ環境を整備します			
事業名	親子で親しむ絵本講座			
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独	
事業の目的	就学前の児童をもつ保護者を対象に、読み聞かせの大切さや絵本の選び方などの重要性を啓発することを目的とする。			
事業の内容	絵本作家や朗読ボランティア等を講師とし、就学前の児童をもつ保護者を対象に、保育園や町立図書館などで、読み聞かせの大切さや絵本の選び方などについて講座を開催する。			
事業の対象	町内の未就学の子どもとその保護者			
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	20 千円	120 千円	50 千円	
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
十分できている	できている	あまりできていない	できていない	
内部評価	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる	B ほぼ目標どおり
判定説明考察	<p>生涯にわたって、読書習慣を身に付けるためにも、幼児期の家庭での読み聞かせは重要で、どんな本を読んだらよいのか、またどうしたら子どもが絵本を読むようになるか模索している保護者を対象に平成24年度は次の2講座を開設した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「絵本で子育てを」 講師 平生町おはなし会 会場 宇佐木保育園 (保護者57人、園児38人) ・「生きることをはげます読書～絵本・児童書・大人の本」 講師 横山眞佐子 会場 平生図書館 (保護者15人、子ども6人) <p>どちらも、参加者の意見として、継続の声があるので、一層の普及を図っていく予定である。</p>			
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了する	
外部評価		評価委員意見		

平生町教育委員会

平成24年度事業評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	生涯スポーツを推進します		
事業名	ファミリースポーツレクリエーション大会		
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独
事業の目的	3世代にわたる家族を中心とした地域の人々がともにスポーツ・レクリエーションを楽しむことを通じて、健康・体力の向上を図り、生涯スポーツ気運を盛り上げるとともに、地域の交流を図り、こころ豊かな地域づくりを目指す。		
事業の内容	体育協会をはじめ、スポーツ推進委員、スポーツ少年団、子ども会、老人クラブ、婦人会、商工会女性部、PTA連絡協議会などの団体で組織されているファミリースポーツレクリエーション大会実行委員会が主催する。地区別の4チーム(赤チーム:宇佐木・豎ヶ浜、青チーム:平生町・平生村、白チーム:佐賀、黄チーム:大野曽根)に分かれ、老若男女が健康づくりのため楽しめる競技を行う。		
事業の対象	町民		
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	219 千円	192 千円	199 千円
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	増加	横ばい	減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	十分できている	できている	あまりできていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
十分できている	できている	あまりできていない	
内部評価	B	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる
判定説明考察	平成24年度においても、実行委員会を組織している関係団体のボランティアでこの大会を運営して約800名の参加があった。 毎年、既存の種目内容を見直し、新しい競技を取り入れることにしており、平成24年度は「童心にかえてみませんか?」というキャッチフレーズで大人の玉入れを行った。 大会としては、抽選会の実施、バザーの出店など大会関係者(機関)から支援があることから、参加数については横ばいと思われる。 ただ、参加者が子ども主体となり固定化している点については、もっと幅広い年齢層が参加できるような内容を検討することも必要と思われる。		
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了する
外部評価		評価委員意見	

平生町教育委員会

平成24年度事業評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	生涯スポーツを推進します		
事業名	町内駅伝競走大会		
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独
事業の目的	スポーツの振興と親睦融和を図り、併せて生涯スポーツ推進の一環として町民のスポーツに対する気運を醸成する。		
事業の内容	中学校を出発、佐賀小学校をゴールとする平生町内を走る全コース14.9Kmの駅伝競走大会を実施する。小学生・中学生女子・一般2部・一般女子の部は9区間で、中学生男子・一般1部の部は5区間で行う。 体育協会陸上部とスポーツ推進委員協議会が主管となり、多くのスポーツボランティアの協力で運営されている。		
事業の対象	町内団体(学校、企業、地域)		
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	696 千円	867 千円	402 千円
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	増加	横ばい	減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	十分できている	できている	あまりできていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
十分できている	できている	あまりできていない	
内部評価	評価不能	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる
判定説明考察	参加申請チーム数35チーム(小学校:8チーム、中学校男子:9チーム、中学校女子:7チーム、一般1部:2チーム、一般2部:8チーム、一般女子:1チーム)で開催に向けて、準備を整えていたが、平成24年度は悪天候により中止となり目標達成の判断はならなかった。 駅伝運営には、中継所、交通安全、集計等多くのスポーツボランティアが必要であるが、近年、高齢化により世代交代が必要となっているが、新たなボランティアの確保に苦慮している。		
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了する
外部評価		評価委員意見	

平生町教育委員会

平成24年度事業評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	生涯スポーツを推進します		
事業名	スポーツ推進計画策定		
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独
事業の目的	町民が「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも」それぞれの体力・技術・目的に応じて、身近な地域でスポーツを楽しめる豊かな生涯スポーツと元気なまちづくりを実現する。		
事業の内容	スポーツ基本法の施行に伴い、国は平成24年3月に「スポーツ基本計画」を策定し、県は平成25年3月に「山口県スポーツ推進計画」を策定した。国や県の動向や計画を参酌して、本町においても、平成24・25年度の2か年で平生町スポーツ推進計画を策定する。 平成24年度については、スポーツ推進計画の策定資料となる住民アンケートを実施する。		
事業の対象	町民		
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	千円	千円	321千円
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	増加	横ばい	減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	十分できている	できている	あまりできていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
十分できている	できている	あまりできていない	
内部評価	B	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる
判定説明考察	アンケート調査は、一般は地域や年齢・男女別が均等になるよう按分した2,000人にアンケート用紙を発送して実施した。(回答数 780人 回答率 39.0%) また、児童生徒については、平生小6年生101名、佐賀小6年生14名、平生中3年生104名、町内在住の熊毛南高等学校生44名に学校を通じてアンケート調査を実施した。 このようにして得られたアンケート結果については、集計と分析を行い、スポーツ推進計画の策定に反映する予定である。		
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了する
外部評価		評価委員意見	

平生町教育委員会

平成24年度事業評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進			
努力点	生涯スポーツを推進します			
事業名	我がまちスポーツ推進事業			
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独	
事業の目的	国体開催競技等を「我がまちスポーツ」として地元で根付かせ、スポーツの推進を図るため、地域が主体となった「スポーツの定着・育成に向けた取組」を支援する。			
事業の内容	本町の「我がまちスポーツ」を「サッカー」と位置づけ、平生キッズとサッカーをする会とFCクレアーレが行う事業を支援する。 県の「我がまちスポーツ推進事業」の採択を受けて、それぞれの団体への補助金の内、2分の1が県から交付されるものである。			
事業の対象	我がまちスポーツ推進団体			
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	千円	千円	430千円	
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
十分できている	できている	あまりできていない	できていない	
内部評価	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる	B ほぼ目標どおり
判定説明考察	平生キッズとサッカーをする会が実施した「キッズサッカー教室IN平生」では述べ参加者127人、観戦者130名、スタッフ23名で行われ、就学前の子どもがサッカーを通じて遊びとスポーツの楽しさを体験することができた。 FCクレアーレが実施した創設10周年記念大会(参加選手160名、観戦者170名、スタッフ23名)及び元Jリーガー(元レノファ山口監督)の月岡氏を招いたサッカー教室により、近隣市町チームの交流と教室による高い技術の習得が図られた。 以上、2つの団体の事業は我がまちスポーツとしての目標を達成していると思われる。			
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了する	
外部評価		評価委員意見		

平生町教育委員会

平成24年度事業評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	生涯学習を推進します		
事業名	曾根公民館整備事業		
区分	単年度	継続	実施根拠 法令等 単独
事業の目的	安心して生涯学習ができる施設の整備。		
事業の内容	平成23年度に外壁崩落によって、利用に支障をきたしていた曾根公民館を建て替え、新たな地域の館とする。		
事業の対象	町民(特に曾根地区)		
事業費 (決算額)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	千円	千円	7,175 千円
事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	増加	横ばい	減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	十分できている	できている	あまりできていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
十分できている	できている	あまりできていない	
内部評価	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる
判定説明考察	利用者の利便性と建設経費を考慮し現地建替えとした。(施工 (株)NTTファシリティーズ) 建設経費の負担を分散するために事業方式はリース方式とし、10年後に所有権を帰属させることを条件とする賃貸借契約を締結した。(リース業者 NTTファイナンス株式会社) 新しい建物に併せて備品として音響機材を新たに整備した。 また、地元企業(永大産業株式会社)から、前曾根公民館建設時と同様に、建築資材の寄贈があった。 新築後は、第34回曾根公民館まつりが開催され、地域の生涯教育の館として新たなスタートを切ることができた。		
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了する
外部評価		評価委員意見	

平生町教育委員会